

人口および認定者数推計

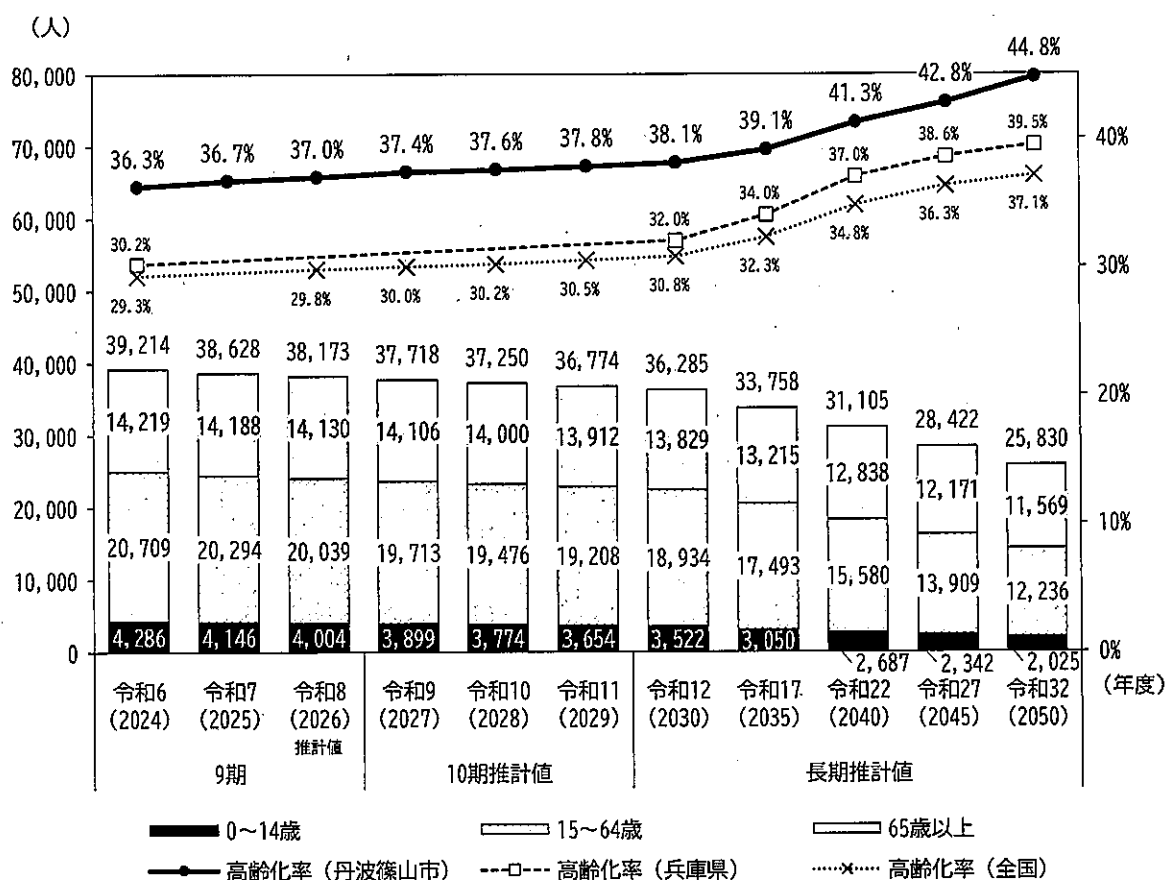
1. 人口および高齢者数推計

総人口は、今後も減少傾向で推移し、令和 11 (2029) 年度には 36,774 人程度、令和 22 (2040) 年度には 31,105 人程度まで減少することが見込まれています。

高齢者人口も緩やかな減少傾向で推移し、令和 11 (2029) 年度には 13,912 人程度、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和 22 (2040) 年度にも 12,838 人程度まで減少すること見込まれています。

本市の高齢化率は、国・県に比べて 5 ポイント以上高い水準で推移しており、今後も増加傾向で推移し、令和 11 (2029) 年度に 37.8%、令和 22 (2040) 年度に 41.3%、令和 32 (2050) 年度には 44.8%に達することが見込まれています。

■総人口と高齢者人口



丹波篠山市は、住民基本台帳 (各年度9月末) データを用いて、コーホート変化率法により推計

兵庫県は、総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (令和5 (2023) 年推計)」

全国は、総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 (令和5年推計)」

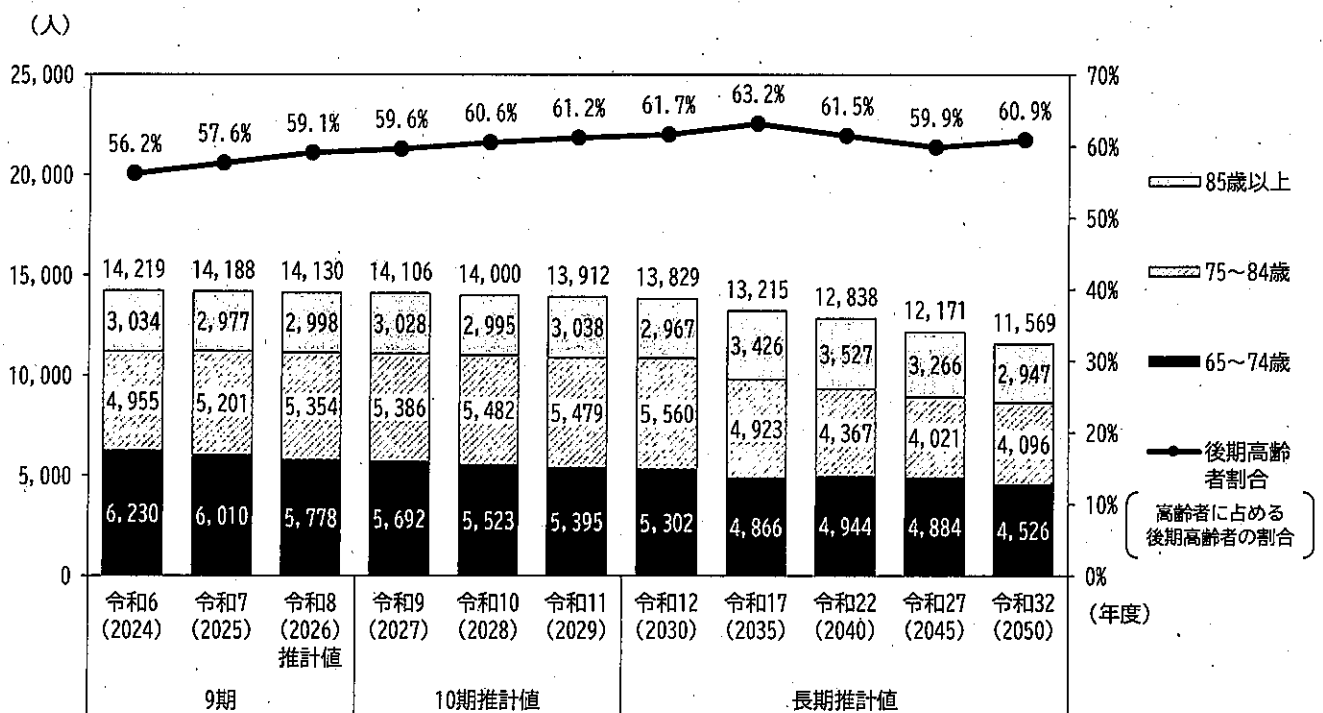
前期高齢者（65～74歳）は、今後も減少傾向で推移し、令和11（2029）年度には5,395人程度に、さらに令和22（2040）年度には4,944人程度まで減少するものと見込まれます。

後期高齢者のうち75～84歳は増加傾向で推移しますが、令和12（2030）年度の5,560人程度をピークに減少に転じ、令和22（2040）年度には4,367人程度、令和32（2050）年度には4,096人程度まで減少するものと見込まれます。

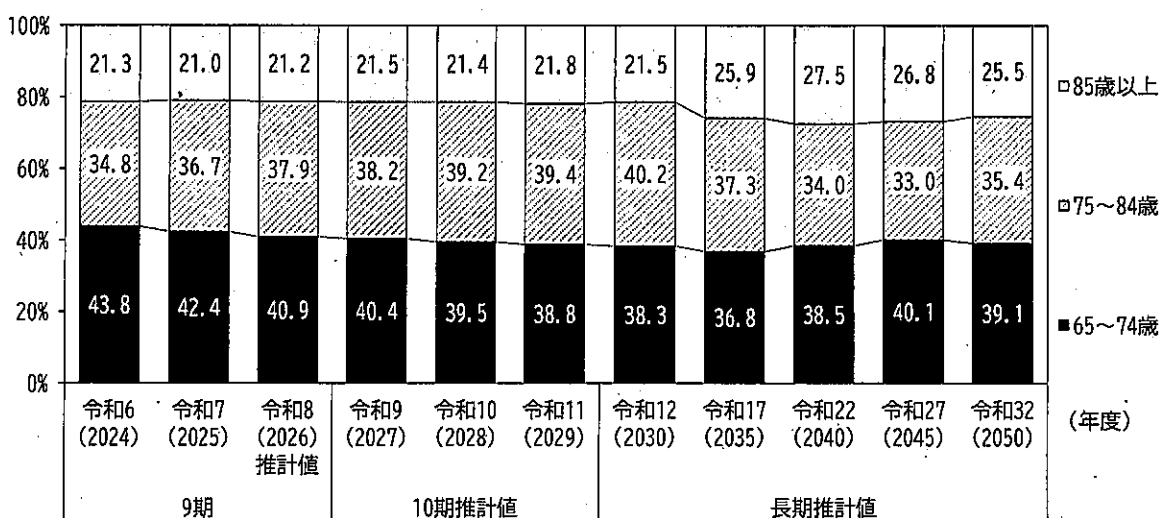
後期高齢者のうち85歳以上は、令和12（2030）年度までは3,000人前後の横ばいで推移しますが、令和17（2035）年度以降大幅に増加し、団塊の世代の加齢にともない令和22（2040）年度には3,527人程度とピークに達したのちに減少傾向となる見込みです。

後期高齢者割合は、令和17（2035）年度までは増加傾向で推移し、その後は60%前後で推移する見込みです。

■高齢者の年齢構成



■高齢者の年齢構成の割合の推移



住民基本台帳（各年度9月末）データを用いて、コーホート変化率法により推計
※四捨五入の関係上、合計が100%とならない場合があります。

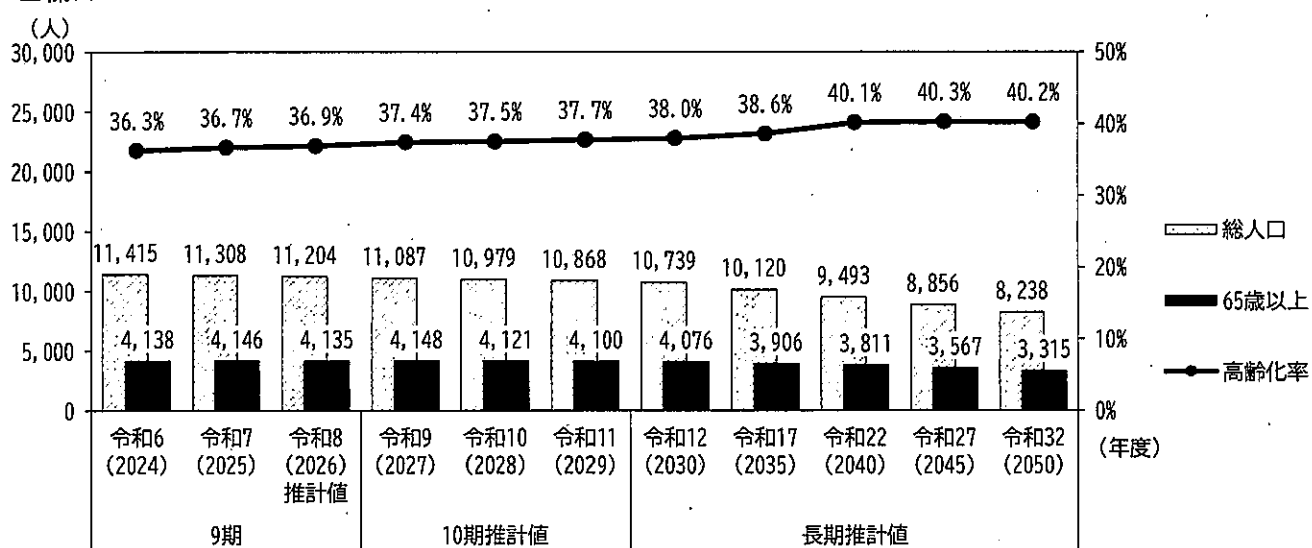
2. 圏域別人口および高齢者数推計

圏域別の人口と高齢者数の推移をみると、令和7年実績と比べて第10期期間の令和11年の人口減少率が最も大きいのは多紀（R7年人口を100としてR11年は91）ですが、高齢化率の上昇幅が最も大きいのは今田（39.3%→41.2%/+1.9）となっています。

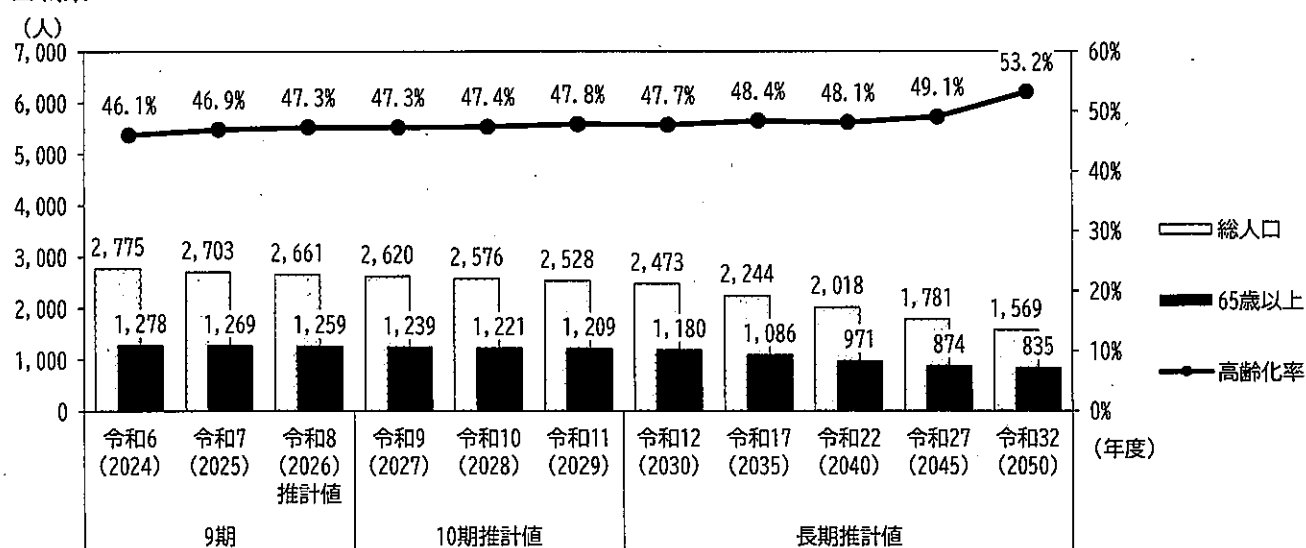
2040年には、団塊ジュニア世代の多い西紀と丹南で高齢化率が大幅に上昇する見込みです。

2050年には多紀では高齢化率が約65%に達し、城東、西紀では50%を超えると見込まれ、40%程度で推移する篠山との差がこれまで以上に大きくなる見込みです。

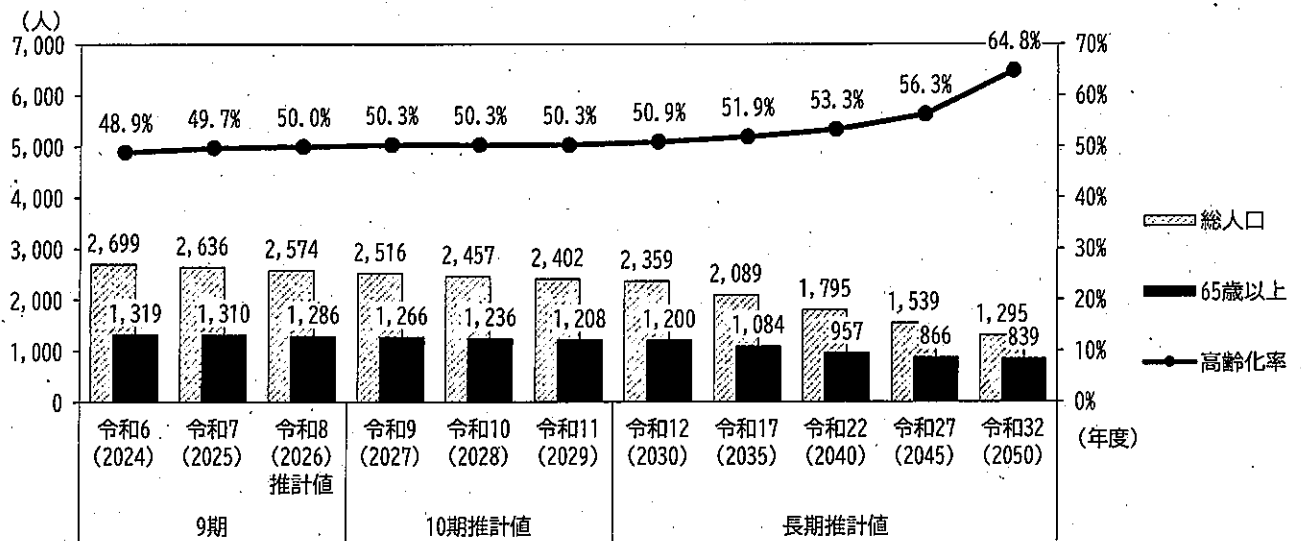
■篠山



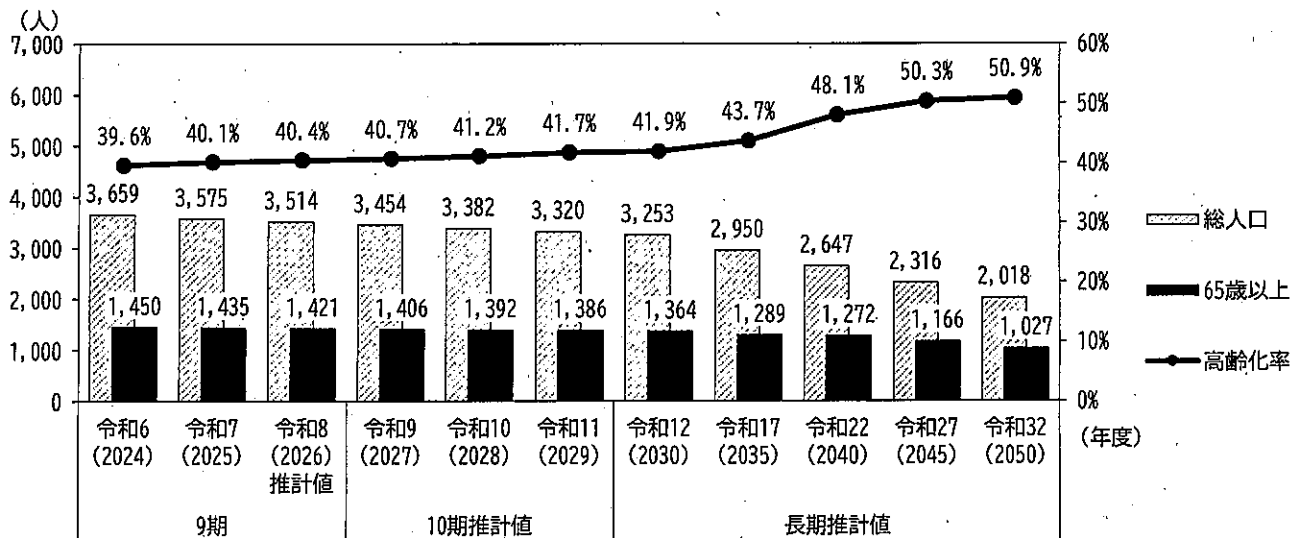
■城東



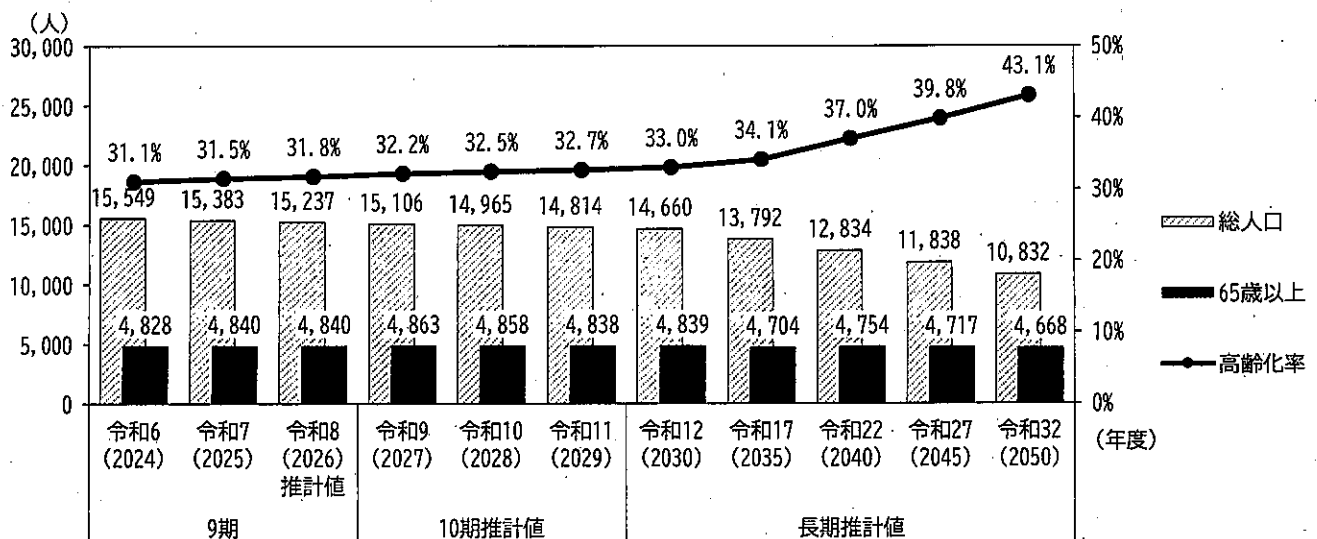
■多紀



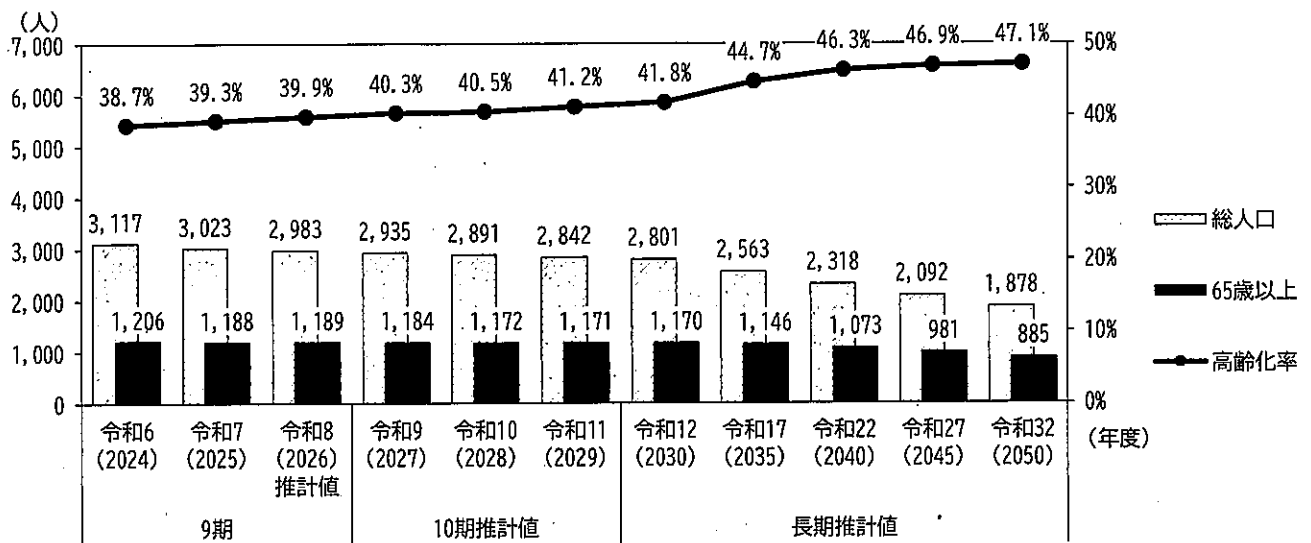
■西紀



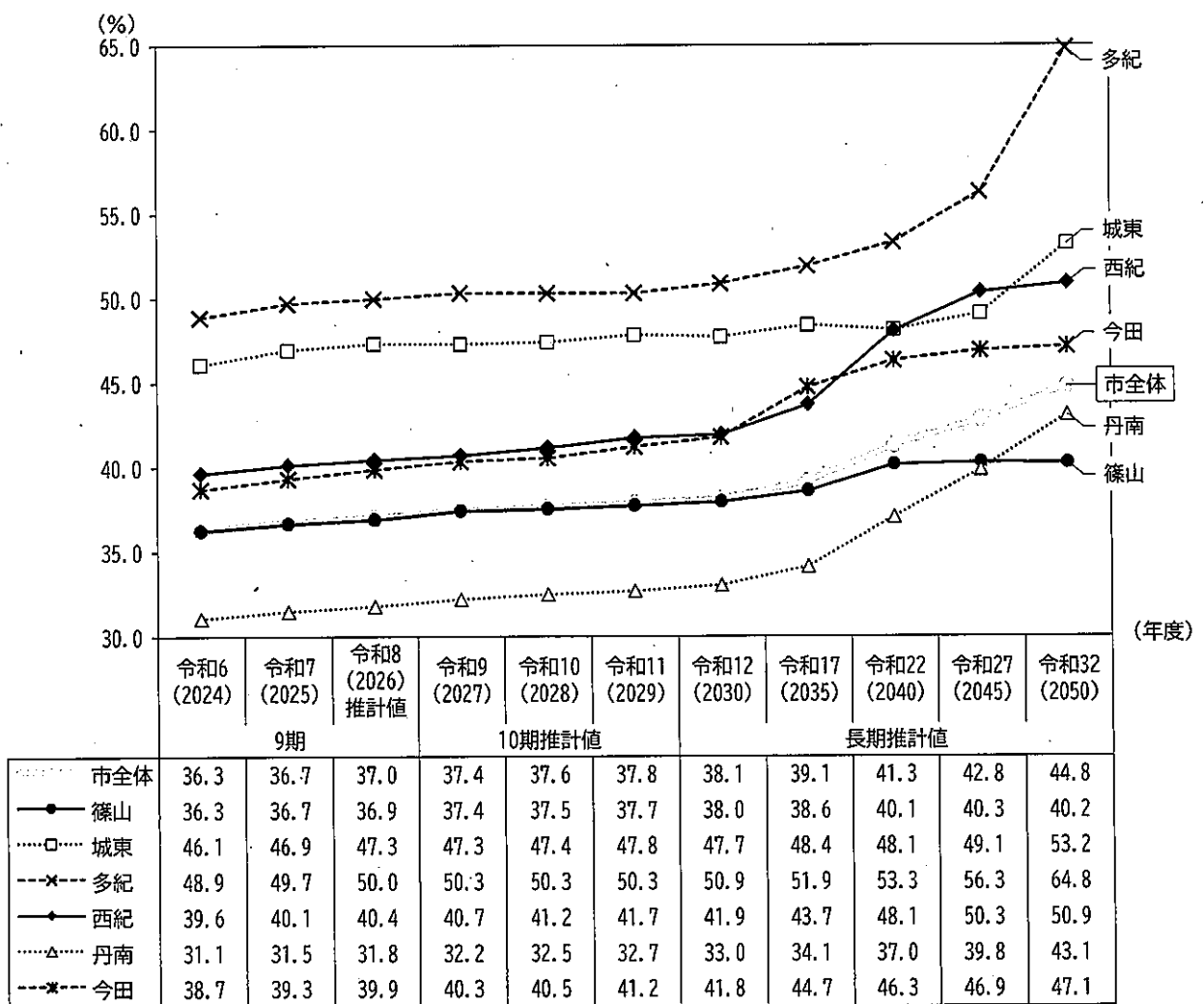
■丹南



■今田



■圏域別高齢化率の推移



■人口ピラミッド

【篠山】 50歳以下人口のくぼみが少ないため高齢化率が横ばいを維持する要因となっています。

【城東】すでに超高齢化のため人口減少と高齢化が相殺されて高齢化率が横ばいとなっています。

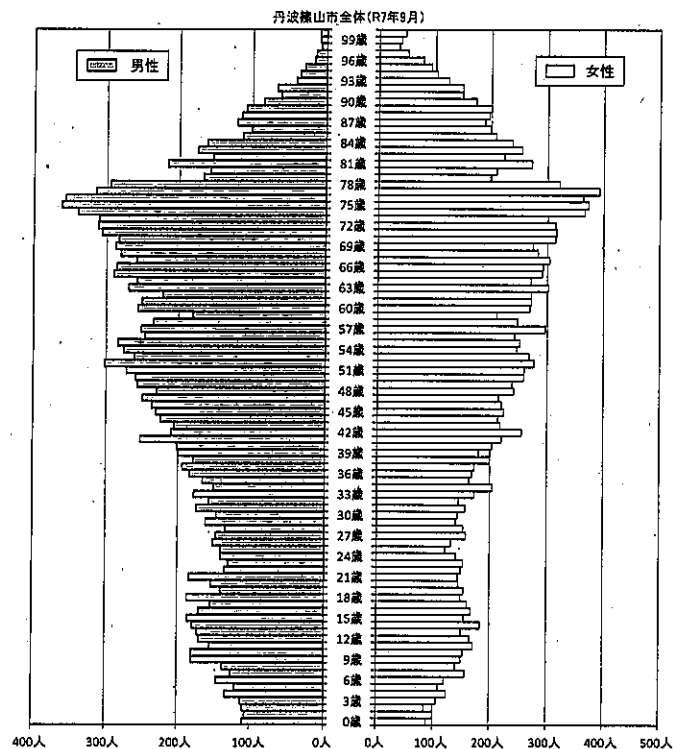
【多紀】若者が少なすぎるため2045～2050年の高齢化率が一挙に上昇します。

【西紀】50代の割合が相対的に高いため2040年に急激に高齢化率が高まる要因となっています。

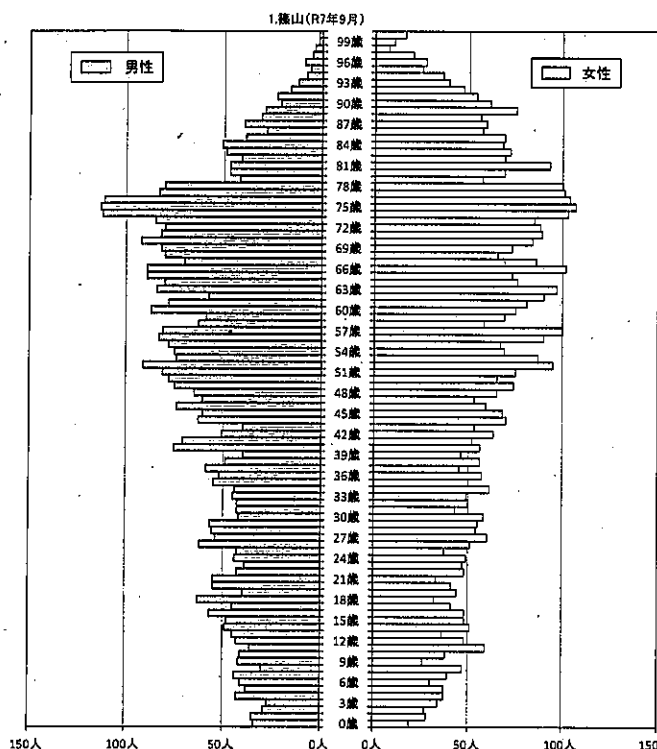
【丹南】団塊ジュニア世代の層が厚いため現在の高齢化率は低いですが2040年以降、急激に上昇します。

【今田】団塊ジュニア世代の割合が相対的に低いため高齢化率の上昇速度は緩やかに推移します。

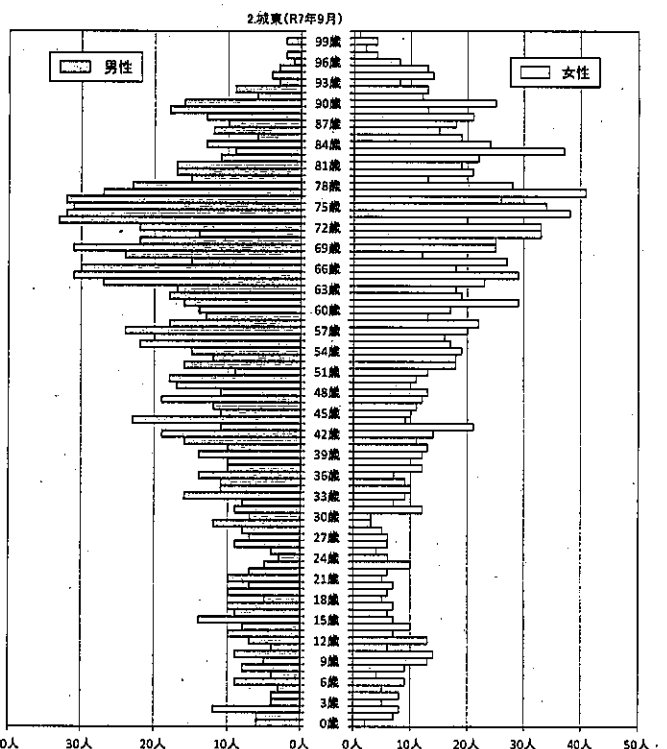
【丹波篠山市全体 R7年9月】



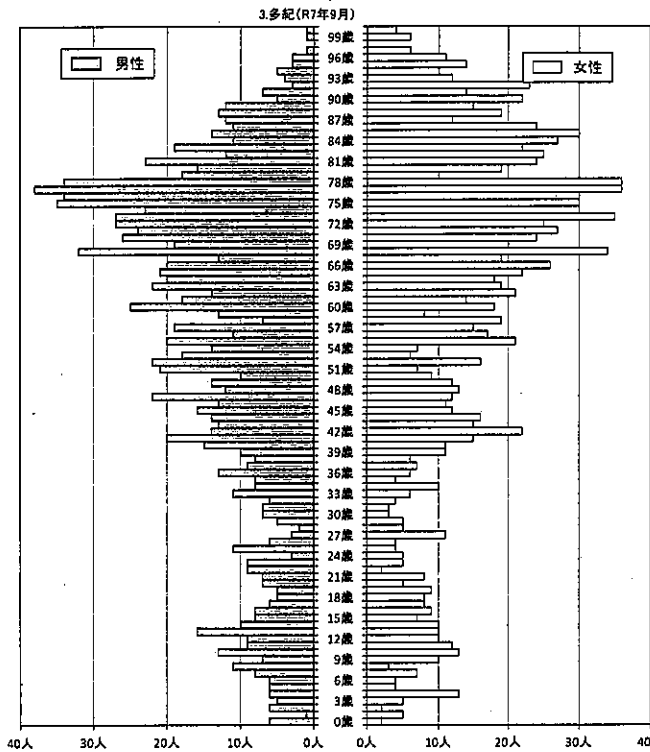
【1. 篠山 R7年9月】



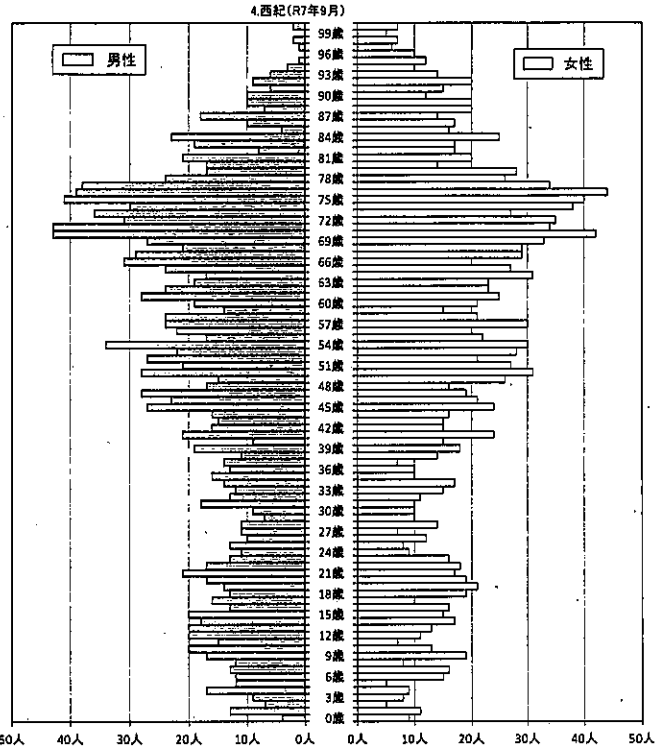
【2. 城東 R7年9月】



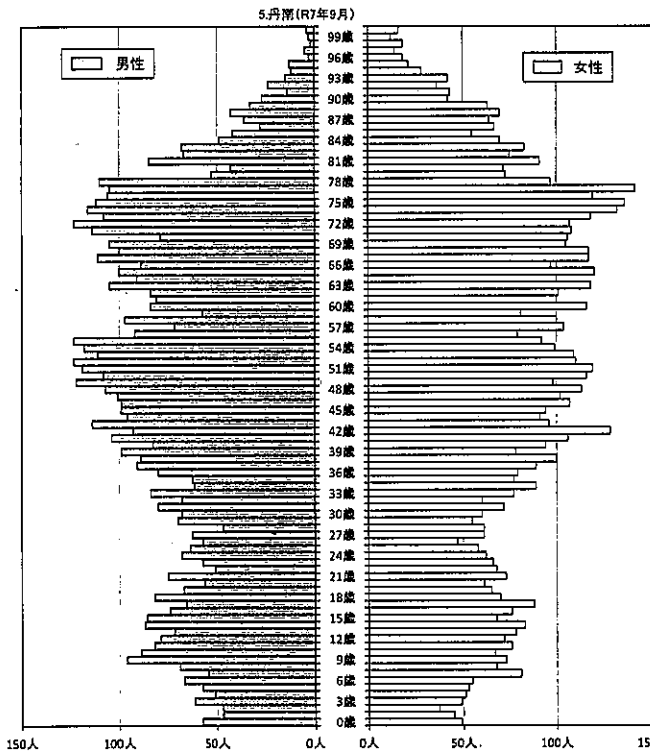
【3. 多紀 R7 年 9 月】



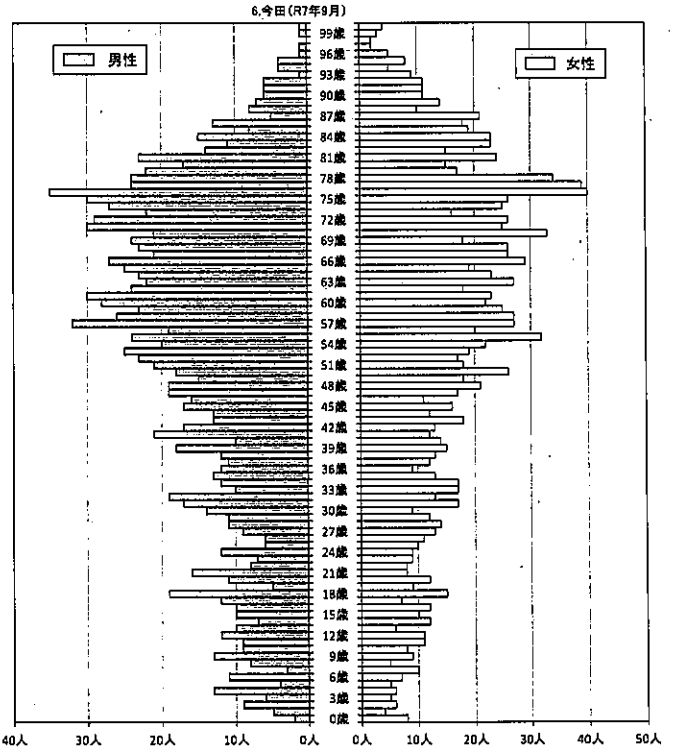
【4. 西紀 R7 年 9 月】



【5. 丹南 R7 年 9 月】



【2. 城東 R7 年 9 月】

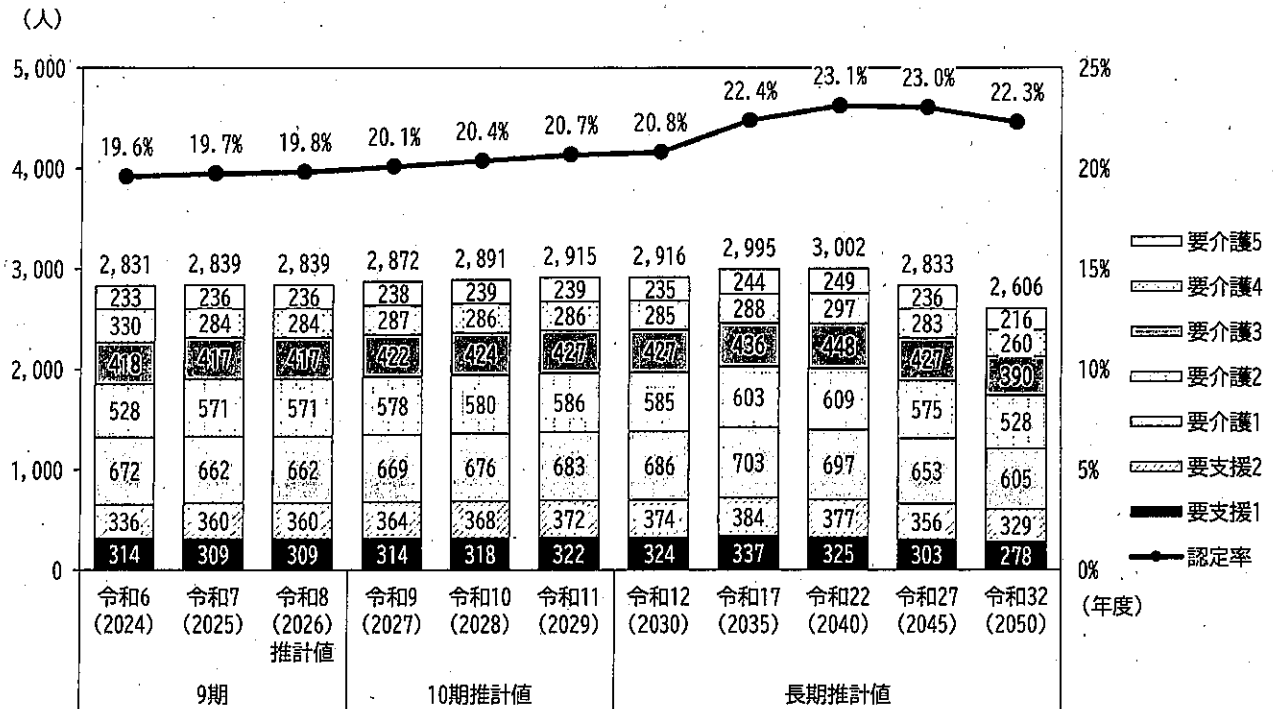


3. 要介護度別の認定者数および認定者率の推計

認定者数は、緩やかな増加傾向で推移し令和11(2029)年度に2,915人程度となる見込みです。長期的にみると令和22(2040)年度の3,002人程度をピークに減少に転じ、令和32(2050)年度には2,606人程度となることが見込まれます。

認定率(高齢者人口に対する1号認定者数の割合)も増加傾向で推移し、令和11(2029)年度には20.7%程度、長期的にみると令和22(2040)年度には23.1%となると見込まれます。

■認定者数の見込み



地域包括ケア「見える化」システムによる推計(各年度9月末)